

ユニセフ 子ども物語

地球に生きる子どもの暮らし

Kingdom of Nepal

ネパール



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



子どもクラブのがんばりで 学校へ行けるようになった パールバータ



13歳のパールバータは、5歳の頃、ポリオにかかり両脚が不自由になってしまいました。ポリオは、食べものや手などについたポリオウイルスが口から体に入り込み、熱が出たり、お腹が痛くなったりする病気で、重いときは体に麻痺が残ることがあります。パールバータの両親は、日雇いの仕事をしています。6人家族を養うために、どんな仕事でもひきうけてがんばっていますが、生活するのにせいっぱいで、パールバータのめんどろをみる時間がありません。

近所の人たちから、「なぜパールバータを学校に通わせていないの?」と言われて、両親はパールバータを家から一番近い学校につれていきました。けれど、学校は脚の不自由な子どもの入学を認めてくれませんでした。「私はみんなみたいに学校に通うことができないんだわ」パールバータは悲しくて、涙があふれてきました。



パールバータの話が、ユニセフの支援によって作られた「子どもクラブ」に伝わりました。子どもクラブとは地域の子もたちが集まって、学校や地域の人たちに、保健や衛生の知識、女の子に対する差別をやめること、女の子にも教育を受けさせる権利があることなどの問題を理解してもらうために活動をする組織です。クラブの子もたちは、壁新聞を作って地域の人たちに保健や衛生、教育の大切さについて説明をしたり、学校にお願いをしたり、積極的な活動をしています。クラブの委員長をしている15歳のニロジは、「すべての子どもは教育を受けることができるのですから、パールバータを入学させてあげてください」と学校にお願いしました。



子どもクラブが応援していることを知って、学校はパールバータの入学を許可することにしました。ニロジは、「パールバータは入学をことわられて、すごく落ち込んでいました。絶対に勉強なんかしないとも言っていました。でも、私たちは、

子どもはみんな教育を受ける権利があることを知ってもらいたかったんです」と語っています。

学校へ通うようになったパールバータは、子どもクラブの活動にも参加するようになりました。「クラブに行くと、友だちといろいろなお話をします。みんな真剣に耳を傾けてくれて、いつでも手助けしてくれる用意ができています。みんながいなかったら、絶対に学校に行けなかったと思います」と話すパールバータはとてうれしそうです。



ネパールは北に中国、南にインドを控えた内陸国です。人口は約2,516万人で、その約47%が18歳未満で占められています。出生時平均余命と国民総所得は南アジアで最も低く、国の人口の半数近くが貧困ライン以下の生活をしています。人口の86%は農村部に住んでいて、民族間の所得格差が著しい状況にあります。

子どもたちの自主的な活動が地域を活性化させる

●ネパールの子どもを取りまく問題

貧困に苦しむネパールでは、性差別や民族間の差別も根強く残っており、子どもたちは複雑な状況に置かれています。家計を助けるために、子どもたちの多くが小さいころから働き始めます。家事をするために、学校へ通えなくなることも珍しくありません。親も教育の価値を理解できず、特に女の子が厳しい状況におかれています。女性や女の子は誕生のときからずっと差別の壁に直面しており、貧しい食事、不適切な医療ケア、負担が大きい家事労働、早婚、早い時期での出産など問題が絶えません。

	5歳未満 死亡率 (1000人あたり) (人)	小学校に通って いる子どもの割合 (男) (%)	小学校に通って いる子どもの割合 (女) (%)	小学校5年生の 在学率 (%)	国民 総所得 (米ドル)
ネパール	82	75	66	7	240
東アジアと 太平洋地域平均	40	92	9	94	1,426
ネパール	4	100	100	100	34,510

「世界子供白書2005」より

●子どもクラブ

物語に出てくるネパールの「子どもクラブ」は、ユニセフの「ミーナ・コミュニケーション・イニシアティブ」という南アジア地域の女の子に対する特別支援のプログラムをきっかけに始まった活動です。ミーナはユニセフが製作したアニメーションの主人公の女の子で、子どもの権利、保健衛生、ジェンダー差別の撤廃、女子教育などの問題を理解してもらうために作られたキャラクターです。

子どもクラブは、学校や地域単位で組織される子どもの集まりです。学校や地域の衛生など社会的な活動に取り組んでいます。子どもたちの自主的な活動は、学校を活性化させ、子ども自身の自主性も促します。



オリエンテーションを受ける子どもたち
©日本ユニセフ協会/Funato



子どもクラブの活動を紹介する写真
©日本ユニセフ協会



子どもクラブが作った壁新聞
©日本ユニセフ協会

●学校衛生プログラムと子どもクラブ

ネパールでは、2000年から26地域、126校で学校衛生プログラムが実施され、2001年に62校が加わり、現在は188校が参加しています。郡レベルでは郡教育局が教育関係者やソーシャルワーカーに研修を受けさせますが、村落レベルでは、はじめに全教員が研修を受け、その後、子どもクラブを結成し、クラブの子どもたちに1日のオリエンテーションを実施します。子どもクラブは、地域の衛生意識の向上のための活動を行い、ユニセフの担当者から衛生や環境整備についての指導を受けます。

●パンチ小学校の活動事例

バジャラプ村のパンチ小学校では、教員全員が衛生の研修を受けました。この学校の子どもクラブは、学校と地域の人びとに衛生の大切さを知らせる役割を担っており、4~5人ずつ5つのグループを作り、それぞれが次のような活動を行いました。

1. 子どもたち全員に手を洗うことの大切さを教え、衛生の知識を伝える。
2. 横断幕を持って地域を回り、「トイレをきれいにしましょう」と訴える。
3. 水の大切さを訴え、水源のまわりをきれいにする方法を伝える。
4. 学校や地域でORS（経口補水塩）の作り方を伝える。
5. 敷地内にゴミ捨て場を掘り、ゴミ拾いや焼却を行い、環境整備についての正しい知識を伝える。



パンチ小学校の「衛生のテーブル」
©日本ユニセフ協会

パンチ小学校の校庭には「衛生のテーブル」があり、爪切り、タオル、歯ブラシ、鏡、石鹸などが置いてあり、教員用、生徒用、高学年用、低学年用とそれぞれに衛生教育の指導や練習ができるようになっています。

ビデオ「ミーナ・シリーズ」のご案内

ミーナが主人公として登場するアニメーション・ビデオシリーズは、南アジアのごく普通の女の子の生活とその変化を描くことにより、人びとの意識改革を促すことに使われています。ユニセフライブラリーでも「ミーナ にわとりなんわ」と「ミーナ はんぶんこしよう」の2本を貸し出していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.unicef.or.jp>

ユニセフ資料館→「資料のご案内」でご紹介しています。



©UNICEF2003/GRO03